

中学校 社会科

徳島県教育委員会

1

育成すべき資質・能力の三つの柱

主体性・多様性・協働性
学びに活かす力
人間性 など

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

どのように学ぶか
(アクティブ・ラーニングの視点から
の授業改善)

学習評価の充実
カリキュラム・マネジメントの充実

何を知っているか
何ができるか

個別の知識・技能

知っていること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を単独でとらえるのではなく、統合的にとらえて構造化することを目指す

I 中学校社会科の指導において ICTを活用する際のポイント

2

学校におけるICTを活用した学習場面





一人一台端末を活用したい

GIGAスクール構想に基づく社会科授業

- ・ICT端末は、目標の実現に向かって効果的に活用されているか？
- ・ICT端末の活用が目的になっていないか？

★単元や本時の目標の実現のための

- ・効果的な活用が明確になること
- ・ICT端末を活用する場面を絞ること
- ・具体的な活用のイメージをもつこと

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

グループ協議 I

① 授業におけるICT活用事例 ＜それぞれの提出課題を参考に＞

② 授業でICT活用する際、授業者として気になることの共有、解決策 等

社会科授業は「単元で考える」

- 学びのプロセスを意識して
どの時間に、どのような活動を行うのか
子供の問題解決にとって必要か(必然性)

を考える

子供が
社会的事象から問いをもつ。
解決の見通しを立て

問題解決的な学習過程の充実

資料などを活用して調べ、
みんなで話し合ったり、考えたりして
まとめる(解決する)
まとめたことを社会につなげたり、新たな問いにつなげたりする。

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

地理的分野の事例

C「日本の様々な地域」(1)「地域調査の手法」の展開のポイント

- 生徒の生活舞台を主要な対象地域とした、観察や野外調査、文献調査などの実施方法を学ぶC(1)「地域調査の手法」と、地域の将来像を構想するC(4)「地域の在り方」の二つの中項目に分け、再構成
- 技能の習得を中心とする学習と、地域の地理的な課題の解決を中心とする学習との目的の違いによって項目を分けることで、学習のねらいを明確にし、その確実な実施を意図

視点：場所など

【知識及び技能】

- ・観察や野外調査、文献調査を行う際の視点や方法、地理的なまとめ方の基礎
- ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的技能

【思考力、判断力、表現力等】

- ・地域調査の対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現する

【内容の取り扱い】

- ◆対象地域は学校周辺、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定、観察や調査を指導計画に位置付けて実施
- ◆作業的な学習活動を取り入れる。縮尺の大きな地図や統計その他の資料を含む地理空間情報を適切に取り扱い、活用の技能を高める

※観察や調査を指導計画に位置付け(内容の取扱い)について(解説p.54)

学校周辺地域の観察や調査を、活動に適した時期に行うようにするなど、年間計画の中で弾力的に実施できるようにすることを意味している。観察や調査については、総合的な学習の時間、防災活動や遠足等の学校行事と組み合わせるなど、各学校で教育課程を工夫するなどして実施することが考えられる。

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

I 取り上げる事象を決める。

地域の防災について、「学校周辺の地域で、人々が自然災害から身を守るにはどうしたらよいか」といった課題意識に基づいて主題設定する

II 事象を捉える調査項目を決め、観察や調査を行う。

地元自治体によるハザードマップや国土地理院による旧版地形図、土地利用図などを含む文献調査とともに、実際に学校周辺の地域を観察や野外調査することが大切である。

III 捉えた地理的な事象について地図等に表す。

生徒が観察や野外調査で調べたことをベースマップに記入し、学校周辺の地域の災害時における危険性や安全に避難するために必要な情報を地図等に表示作成する

IV 傾向性や規則性を見だし、地形図や関係する主題図と見比べる。

学校周辺の地域で予測される自然災害の種類や、被害を受ける危険性が高い場所の傾向性を、作成した地図等と地形図や関係する主題図と見比べて読み取る

V 事象を成り立たせている要因を調べ、関連を調査する。

地域の防災における課題を調べることで、どのような場所でどのような自然災害が起こりやすいのかなど、自然環境の特色と自然災害との関係や人間の生活との関わりを整理する

VI 地図等に分かりやすくまとめ、調査結果を発表する。

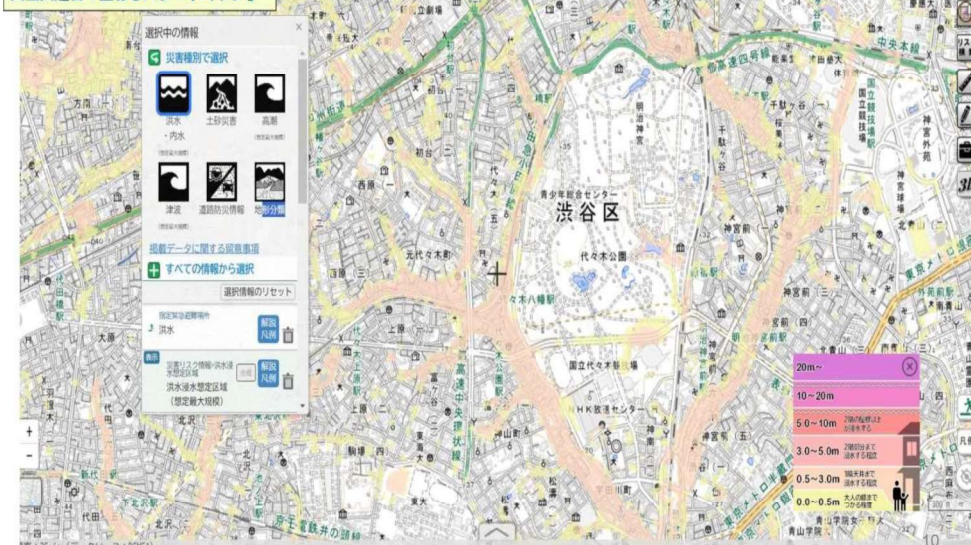
調べて分かったことを根拠として示しながら意見交換することで、より合理的な解釈になるようにまとめている

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

II 事象を捉える調査項目を決め、観察や調査を行う。

地元自治体によるハザードマップや国土地理院による旧版地形図、土地利用図などを含む文献調査とともに、実際に学校周辺の地域を観察や野外調査することが大切である。

国土交通省「重ねるハザードマップ」

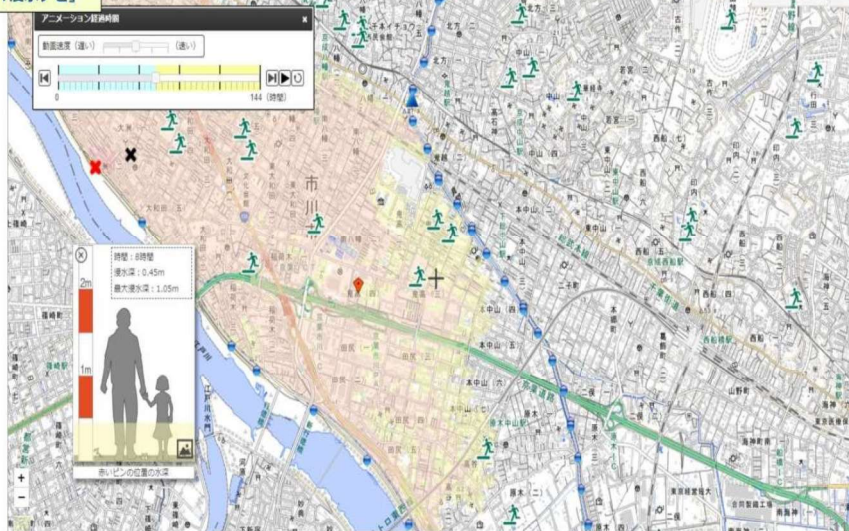


「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

II 事象を捉える調査項目を決め、観察や調査を行う。

地元自治体によるハザードマップや国土地理院による旧版地形図、土地利用図などを含む文献調査とともに、実際に学校周辺の地域を観察や野外調査することが大切である。

国土交通省「浸水ナビ」

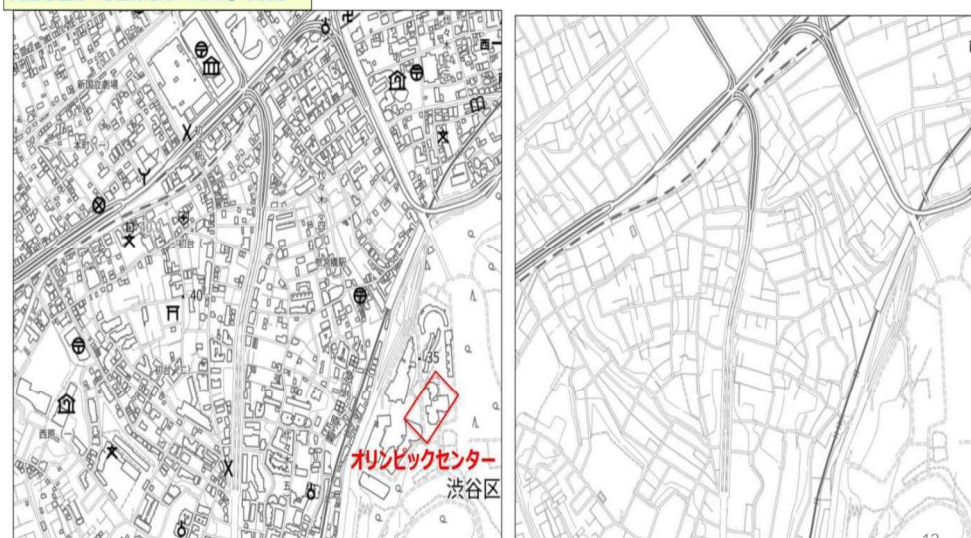


「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

III 捉えた地理的な事象について地図等に表す。

生徒が観察や野外調査で調べたことをベースマップに記入し、学校周辺の地域の災害時における危険性や安全に避難するために必要な情報を地図等に表示作成する

国土地理院「地理院地図 Vector」の活用

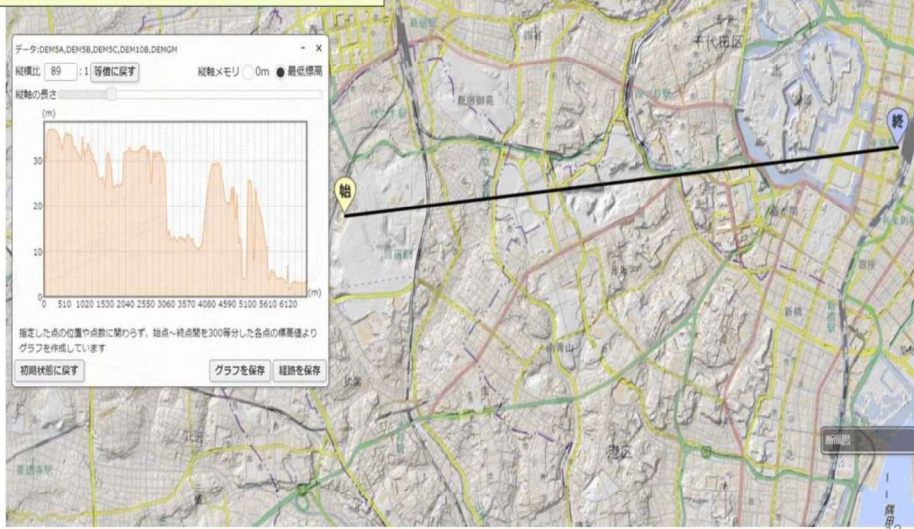


「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

IV 傾向性や規則性を見だし、地形図や関係する主題図と見比べる。

学校周辺の地域で予測される自然災害の種類や、被害を受ける危険性が高い場所の傾向性を、作成した地図等と地形図や関係する主題図と見比べて読み取る

国土地理院「地理院地図」陰影起伏図を重ね、断面図の作成



「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

- 生徒の生活舞台を主要な対象地域とした、観察や野外調査、文献調査などの実施方法を学ぶC(1)「地域調査の手法」と、地域の将来像を構想するC(2)「地域の在り方」の二つの中項目に分け、再構成
- 技能の習得を中心とする学習と、地域の地理的な課題の解決を中心とする学習との目的の違いによって項目を分けることで、学習のねらいを明確にし、その確実な実施を意図

視点：空間的相互依存作用や地域など

【知識】

- ・地域の実態や課題解決のための取組
- ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法

【思考力、判断力、表現力等】

- ・地域の在り方を、地域の結び付きや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する

【内容の取り扱い】

- ◆各学校において具体的に地域の在り方を考察できるような、適切な規模の地域や適切な課題を取り上げる
- ◆学習の効果を高めることができる場合には、内容のC(1)や、C(3)の中の学校所在地を含む地域の学習と結び付けて扱うことができる
- ◆地図や諸資料を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動の充実

※C(1)とC(4)をまたがった単元構成及び評価場面設定も考えられる。その場合、二つの中項目を一つの大きな「単元」とし、それぞれに示された評価規準を並列併記して設定することなどが考えられる。(「参考資料」pp.40-41)

14

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

歴史的分野の事例

中等教育資料 各教科等の改善／充実の視点 社会(歴史的分野)
「考察、構想を促す資料の活用(令和5年5月号～令和6年3月号)より

- (1)「調べまとめる技能」
- (2)「単元構成における導入」
- (3)「地図の活用」、
- (4)「地域の博物館等とデジタル・アーカイブの活用」
- (5)「動画などの活用とその留意点」

→(アンケートに関連して)

教師の教材研究からは、例えば、国立公文書館、国文学研究資料館、国立国会図書館、国立博物館、大学図書館等のデジタル・アーカイブやデジタル・ライブラリー等も活用できるが、中学校歴史的分野の学習教材としては、まずは各地域の公立図書館や博物館などのホームページ等を確認し、より具体的で身近な資料から学習内容との関わりを工夫することが求められる。(令和5年12月号)

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

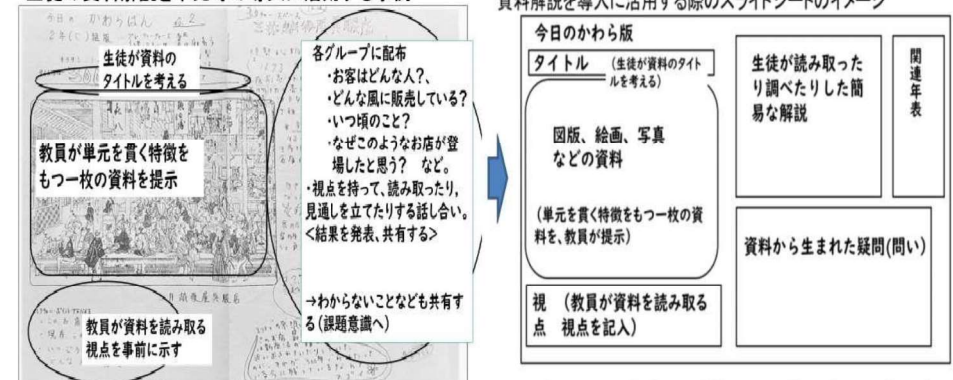
15

資料を「見せる」「映す」のみで留めることなく、「活用する」

例：小単元や各「次」を貫く課題(問い)と関連した一枚の図版や絵画、写真などの資料を示し、生徒が資料を作成する活動(小単元やその下にある1～2単位時間のまとまりとなる「次」の導入として資料を活用したもの)

例えば江戸時代の学習について、4つの小単元、それぞれ2つの「次」ごとに、主たる課題(問い)と関係した計8枚の図版資料を活用した場合。例えば「加賀藩の参勤交代の行列」「出島の図」「町火消」「天明の飢饉図」「三井越後屋呉服店」「モリソン号」など、課題(問い)と連動するものを選択。資料を活用することで内容に沿った見通しを立てることが可能となる。

生徒の資料解説を単元等の導入に活用する事例



(左はプリント等での作業)→ これらをICTの活用によってスライドでの共同作成へ。全体での共有→単元の導入が可能。「見通し」を立てる活動として、一単位時間の内の前半部分程度の活動や、事前の課題として想定。

16

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

中学校学習指導要領 社会 第3 指導計画の作成と内容の取扱い2(4)（「解説」pp.178-179参照。）
 (4) 社会的事象については、生徒の考えが深まるような様々な見解を提示するよう配慮し、多様な見解のある事柄、未確定な事柄を取り上げる場合には、有益適切な教材に基づいて指導するとともに、特定の事柄を強調し過ぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察したり、事実を客観的に捉え、公正に判断したりすることを妨げることのないよう留意すること。

（例：「主体的な学び」を促す資料としての動画の活用）

（例え動画を活用するとしても……）教師が教壇に立っている通常の授業において、動画は教師の説明の代替を担わせるものではない。生徒が単に「視聴」することや、動画の内容を理解させることに留まらず、動画を「資料として」活用することが大切である。教師自身が必要な吟味を踏まえ、多様な視点や多様な事象の側面に気付かせたり、疑問や学習課題を見出したり、他の文書資料、絵画資料などと組合せて考察を深めたりしつつ、何より「主体的な学び」を促すための効果的な資料として、学習を計画することが大切となろう。

教室内で「動画」を活用する際や生徒がweb上の資料を活用する際に確認する視点

- ・歴史研究等の蓄積を踏まえているか。
- ・導かれる論旨は、研究や学習の上で、どのような位置付けと考えられ、それは妥当か。
- ・歴史に関わる事象について、扱っているものは何か、扱っていないものは何か、その意図は何か。
- ・動画を通じての論旨や、扱う事象の原因、背景、結果、影響として示されていることが適切か、飛躍や不整合はないか。
- ・時代像として印象的に示されているものが適切であるか（例えば、中世についての動画の背景が、近世の再現であったりしないか。）。
- ・生徒に誤解を与えるような構成、誘導的な構成になっていないか。

（「中等教育資料」令和6年3月号 各教科等の改善／充実の視点 社会（歴史的分野）より）

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会（中・社会）」

17

デジタルアーカイブスの活用：学習指導要領における社会教育施設との関連の記載（一部 歴史関係のみ）

小学校学習指導要領 社会	中学校学習指導要領 社会 「歴史的分野」	高等学校学習指導要領地理歴史 「歴史総合」	高等学校学習指導要領地理歴史 「日本史探究」	高等学校学習指導要領地理歴史 「世界史探究」
(平成29年)	(平成29年)	(平成30年)	(平成30年)	(平成30年)
第3 指導計画と内容の取扱い 2	3 内容の取扱い (1)	3 内容の取扱い (1)	3 内容の取扱い (1)	3 内容の取扱い (1)
3 博物館や資料館などの施設を活用するとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるようにすること。また、内容に関わる専門家や関係者、関係の諸機関との連携を図るようにすること。	ク 日本人の生活や生活に根ざした文化については、政治の動き、社会の動き、各地域の地理的条件、身近な地域の歴史とも関連付けて指導したり、民俗学や考古学などの成果を活用し、博物館、郷土資料館などの施設を見学・調査したりするなど具体的に学ぶことを通して理解させるように工夫すること。	エ 年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、文化遺産、博物館や文書館、その他の資料館などを調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関する諸資料を整理・保存することの意義や意義に気付くようにすること。また、科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。	ウ 年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、地域の文化遺産、博物館や文書館、その他の資料館などを調査・見学したりするなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関する諸資料を整理・保存することの意義や意義、文化財保護の重要性に気付くようにすること。また、科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。	ウ 年表や地図、その他の資料を積極的に活用し、文化遺産、博物館やその他の資料館などの施設を調査・見学するなど、具体的に学ぶよう指導を工夫すること。その際、歴史に関する諸資料を整理・保存することの意義や意義に気付くようにすること。また、科目の内容に関係する専門家や関係諸機関などの円滑な連携・協働を図り、社会との関わりを意識した指導を工夫すること。

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会（中・社会）」¹⁸

博物館における取組例

仙台市博物館の取組（学校向けに、博物館の活用検討時の参考となる情報を紹介している例）

＜地域の博物館等社会施設のホームページ上の工夫例＞

・教育課程との関連が示されている。
 （例：校種、学年、分野、科目、年間計画上の位置付けなど、それぞれの学習目的との関係が示される。）

・資料・資料解説・学習指導案・生徒用ワークシートがセットで提示されている。
 など。



岩手県立博物館の取組（学習指導要領の記載に沿って常設展示目録を整理している例）

＜中学校での学習の目的は？＞
 △地域の歴史の物知り
 例：地域の歴史の変化を導入し（事例に）、日本の各時代の特色を考える
 例：国の政治の変化と地域の生活の変化を対象→ 多面的・多角的な時代の特色の考察



「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会（中・社会）」

19

公民的分野の事例

中学校社会科公民的分野の目標

(1) 個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識し、民主主義、民主政治の意義、国民の生活の向上と経済活動との関わり、現代の社会生活及び国際関係などについて、個人と社会との関わりを中心に理解を深めるとともに、**諸資料から現代の社会的事象に関する情報を効果的に調べまとめる技能**を身に付けるようにする。

- ① 手段を考えて課題の解決に向けて必要な社会的事象に関する情報を収集する技能
- ② 収集した情報を現代社会の見方・考え方を働かせて読み取る技能
- ③ 読み取った情報を課題の解決に向けてまとめる技能

- 関連のある資料を様々な情報手段を効果的に活用して収集し、かつ考察に必要な情報を合理的な基準で選択し分析するとともに適切にまとめる力を意味している。
- 必要な情報とそうでない情報を選別する合理的な基準を見いだす能力を学習の中で養う工夫が重要である。

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会（中・社会）」²⁰

3

社会的事象について調べまとめる技能（抜粋）

情報を収集する技能

- 【1】調査活動を通して
 - ・行政機関や事業者、地域住民等を対象に聞き取り調査、アンケート調査などを行い、情報を集める
- 【2】諸資料を通して
 - ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める
 - ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて様々な情報を集める
- 【3】情報手段の特性や情報の正しさに留意して
 - ・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認し、その信頼性を踏まえつつ情報を集める
 - ・情報手段の特性に留意して情報を集める
 - ・情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める

情報を読み取る技能

- 【1】情報全体の傾向性を踏まえて
- 【2】必要な情報を選んで
 - 有用な情報を選んで読み取る
 - ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る
 - ・諸情報の中から、目的に応じた情報を選別して読み取る
- 信頼できる情報について読み取る
- 【3】複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 【4】資料の特性に留意して

地理的分野、歴史的分野で身に付けた社会的事象について調べまとめる技能を生かす。

情報をまとめる技能

- 【1】基礎資料として
- 【2】分類・整理して
 - ・相互関係を整理して図（イメージマップやフローチャートなど）にまとめる
 - ・情報機器を用いて、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる
- 【3】情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して
 - ・効果的な形式でまとめる
 - ・主題に沿ってまとめる
 - ・レイアウトを工夫してまとめる

「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会（中・社会）」

中学校社会科公民的分野A(1)

(1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色

位置や空間的な広がり、推移や変化などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 次のような知識を身に付けること。

(ア) 現代日本の特色として少子高齢化、情報化、**グローバル化**などが見られることについて理解すること。

イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(ア) 少子高齢化、情報化、グローバル化などが現在と将来の政治、経済、国際関係に与える影響について多面的・多角的に考察し、表現すること。

日常の社会生活と関わりの深い具体的事例を取り上げ、現代社会の特色を理解できるようにすることが大切。

(例)我が国の生産拠点の変化を表した主題図や貿易額の推移を表したグラフ、人々の多様な価値観を背景に生じる対立や衝突などに関わる主題図などの資料から必要な情報を読み取り、グローバル化の現状を理解できるようにする。

22
「令和6年度中学校各教科等教育課程研究協議会（中・社会）」

確認したいこと・・・

○ICTの活用が目的になっていないか？ →目的ではないこと

○単元で育てる資質・能力は、単元の目標であること

○単元でICT端末を活用する場合は、単元や本時の目標の実現のための効果的な活用が明確になっていること

○単元で効果的にICT端末を活用する場面が絞られていること

○場面において、具体的に

効果的な活用のイメージができていること

II 「地理的分野、歴史的分野、公民的分野の役割やつながりを意識した」社会科授業について

地理的分野について

公民的分野の学習における地理的分野の学習との関連①

公民的分野	A 私たちと現代社会 (1) 私たちが生きる現代社会と文化の特色	<u>位置や空間的な広がり</u> 、推移や変化などに着目して、課題を追及したり解決したりする活動を通して、
-------	-------------------------------------	--

現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などが見られることについて理解すること

- ・ 少子高齢化については、近年の少子化の進行と平均寿命の伸長によって、我が国の人口構造が変化し、世界で類を見ない少子高齢社会を迎えていることや、少子化が一層進み人口減少社会となっていることを理解できるようにすることを意味している。
- ・ その際、家族や家族が生活する場としての家庭、学校や地域社会など日常の社会生活と関わりの深い具体的事例を取り上げ、現代社会の特色を理解できるようにすることが大切である。
- ・ 例えば、我が国が人口減少社会を迎えて、家族との生活、学校や地域社会での生活が変容してきていることや、労働力需給や経済成長など国民経済に大きな影響が出ていること、また、医療や年金など社会保障費の財政負担が増大し、財政の状況が悪化していることを理解できるようにすることなどが考えられる。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」²⁵ 2

公民的分野の学習における地理的分野の学習との関連②

公民的分野	D 私たちと国際社会の諸課題 (2) よりよい社会を目指して	持続可能な社会を形成することに向けて、 <u>社会的な見方・考え方を働かせ</u> 、課題を探究する活動を通して、
-------	-----------------------------------	---

- ・ 公民的分野で学習してきた成果の活用に加えて、「地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された資質・能力が、更に高まり発展するようにすること」(内容の取扱い(1)ア)に留意することが必要
- ・ 課題の探究に当たっては、社会科のまとめとして位置付けられているこの中項目の特質に応じ、各分野における課題を追及したり解決したりする活動において働かせてきた、社会的事象の地理的な見方・考え方、社会的事象の歴史的な見方・考え方、及び現代社会の見方・考え方などを総合的に働かせることを期待
- ・ 課題の設定に関わっては、「身近な地域や我が国の取組との関連性に着目させ」(内容の取扱い)などの工夫を行い、生徒自ら課題を適切に設定できるようにすることが大切
- ・ これらの点を踏まえた上で、よりよい社会の形成を視野に、課題を探究し、その解決に向けて、多面的・多角的に考察、構想した自分の考えの過程や結果を説明、論述することを求めている

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」²⁷ 4

地理的分野B(2)日本の地域的特色と地域区分 → 公民的分野A(1)

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

- (ア) 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること。
- (イ) 少子高齢化の課題、国内の人口分布や過疎・過密問題などを基に、日本の人口に関する特色を理解すること。
- (ウ) 日本の資源・エネルギー利用の現状、国内の産業の動向、環境やエネルギーに関する課題などを基に、日本の資源・エネルギーと産業に関する特色を理解すること。
- (エ) 国内や日本と世界との交通・通信網の整備状況、これを活用した陸上、海上輸送などの物流や人の往来などを基に、国内各地の結び付きや日本と世界との結び付きの特色を理解すること。
- (オ) ①から④※までの項目に基づく地域区分を踏まえ、我が国の国土の特色を大観し理解すること。
- (カ) 日本や国内地域に関する各種の主題図や資料を基に、地域区分をする技能を身に付けること。

※①自然環境 ②人口 ③資源・エネルギーと産業 ④交通・通信

26

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」³

地理的な見方・考え方

社会的事象の地理的な見方・考え方

社会的事象を、位置や空間的な広がりに着目して捉え、地域の環境条件や地域間の結び付きなどの地域という枠組みの中で、人間の営みと関連付けて

中学校学習指導要領解説社会編 p30

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせについては、地理的分野の学習の特質を示している。すなわち、事象の意味や意義、特色や相互の関連を考えたり、地域に見られる課題を把握して、その解決に向けて選択・判断したりするということであり、また、それを用いることによって生徒が獲得する知識の概念化を促し、理解を一層深めたり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用したりするということである。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」²⁸

地理的な見方・考え方を構成する五つの視点

位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域

- 教科を超えて深い学びを実現するための各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を整理することで、それを構成する地理ならではの視点として明示

中項目	位置や分布	場所	人間と自然環境との相互依存関係	空間的相互依存作用	地域	思考力、判断力、表現力等 (～を、考察(構想)し、表現する)
A(1)地域構成	●					世界の地域構成の特色、日本の地域構成の特色
B(1)世界各地の人々の生活と環境		●	●			世界各地における人々の生活の特色やその変容の理由
B(2)世界の諸地域				●	●	地域で見られる地球的課題の要因や影響
C(1)地域調査の手法		●				調査の手法やその結果
C(2)日本の地域的特色と地域区分	●				●	それぞれの地域区分、日本の地域的特色
C(3)日本の諸地域				●	●	中核となる事象の成立条件
C(4)地域の在り方	構想			●	●	地域の在り方

学習や人生において「見方・考え方」を自在に働かせることができるようにする

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

6

社会科、地理歴史科、公民科における思考力、判断力、表現力等の育成のイメージ

幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)別添資料3-3



②「社会的な見方・考え方」を用いて、社会に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想する力

- ・社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる
- ・社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる
- ・社会に見られる課題を把握して、解決に向けて学習したことを基にして社会への関わり方を選択・判断できる



8

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

地理的分野の学習で育成する思考力、判断力、表現力等

- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う

地理的分野において養われる思考力、判断力とは、社会的事象の地理的な見方・考え方をういて、地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察する力、地理的な課題を把握して、解決に向けて学習したことを基に複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる力を意味している。

位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などについては、社会的事象を「地理に関わる事象」として捉える際の、社会に見られる課題を「地理的な課題」として考察する際の視点である。よって、それらの視点に着目することで、社会的事象を地理に関わる事象、すなわち地理的な事象として見いだしたり、社会に見られる課題を「地理的な課題」として考察したりすることを可能にするものである。(「中学校学習指導要領解説社会編」p32)

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」³⁰

7

C(1)調査の視点や方法の理解、読図などの地理的技能の習得など

大項目C「日本の様々な地域」の構造

大項目A、Bの学習の成果を踏まえ

C(2)日本の地域的特色の理解、地域区分する技能の習得など

C(3)諸地域の地域的特色や地域の課題の理解など

- ・日本の諸地域の地域的特色や地域の課題に関する基礎的・基本的な事項の理解
- ・地理的事象を有機的に関連付けて多面的・多角的に考察する力の育成
- ・日本の諸地域の地域的特色や地域の課題に対する関心の高まり

- 「日本各地ではどのような課題が見られたか」
- 「その課題は、私たちの住む地域では、どのような現象として表れているか」

C(4)地域の課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法の理解

公民としての資質・能力の基礎

公民的分野の学習

地域の課題の一般的共通性と地方的特殊性を見いだすとともに、地域に見られる地理的な課題の解決に向けて構想

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」³²

9

歴史的分野は、「地理的分野との連携」、「公民的分野との関連」

キ 歴史に関わる事象の指導に当たっては、**地理的分野との連携**を踏まえ、地理的条件にも着目して取り扱うよう工夫するとともに、**公民的分野との関連**にも配慮すること。

(学習指導要領 社会 歴史的分野 内容の取扱い(1)キ)

「地理的分野との連携」

...指導に当たっては、地図の活用に十分留意して、**歴史の舞台という視点や、その影響や意味・意義を考察したりするなどの際に、地理的な事柄との関わりにも配慮したり、地理的条件に着目して取り扱ったりすることが大切である。**このような地理的分野との連携を踏まえた工夫により、**多面的・多角的に考察する力を育てることが期待される。**
(「解説」p.124)

【参考】

地球儀や地図を積極的に活用し、学習全体を通して、大まかに世界地図や日本地図を描けるようにすること。
(学習指導要領中学校社会地理的分野 3内容の取扱い(3)(ウ))

「...この後の学習において学習した成果を整理する際にも地図を活用できるよう、ここでの学習を位置付けること」
(「解説」p.43)

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

2

① 「歴史的分野」の学習で地図を活用できているか

(例えば...)

縄文時代の気候の特徴と弥生時代への推移、
朝鮮半島の諸地域との関係、
遣唐使船の経路から考察する対外関係、
壬申の乱、
南北朝などの拠点を踏まえた推移の考察、
アイヌの北方交易の背景の考察...

「三内丸山遺跡」
「長安」「百済」「新羅」
「吉野」
「サハリン(樺太)」などの位置



福岡県八女市H.P

例えばペーパーテストで...

問:「南北朝における南朝の拠点はどこか」→「吉野」

→ 空間的な理解がなければ、それは考察につながる知識とはならない。

「教師の言葉」「教科書の文字」の一部を切り取ることに留る。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

3

歴史的分野の学習で、 地理的分野と連携する授業とは？

② 歴史的分野における地理的分野の「視点」の活用

過去の事象の考察、理解についての学習は
(その一部において)
過去の空間において「地理的な見方・考え方」の「視点」を働かせることも。
◎これらを事象の背景や影響、原因や結果、関係性などの視点につなげて、「歴史的な見方・考え方」に着目した考察を一層促すことが可能。

位置や分布、場所を踏まえた政治、
経済、文化などの関係、その事象
の背景にある自然環境や、関連する
事象間の空間的相互依存作用、
さらには事象が起こった地域その
ものに着目することは、歴史に関
わる事象を考察、理解する上で重
要な手がかり。

③ 空間的な把握が考察を深める

<工夫例>

- ・ 毎回の授業時に、略年表とともに事象の舞台となる場所を含めた略地図を板書する。
- ・ 地理的分野での略地図を描く学習を生かし、歴史的分野の学習時も、ノートに略地図を描き、歴史に関わる事象の推移や関係を矢印などで示すように指導している。
- ・ 定期試験のはじめの「大問」は、毎回、単元で扱った事象の舞台となった場所を確認している。そして、地図を用いて考察する問題を出題している。

(単に「歴史の舞台」を紹介するのではなく、歴史に関わる事象について、空間的な視点を交えて事象の意味や意義の考察を促すことを目的としている。)

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」³⁶

4

④歴史的分野の学習においても、地図は

(1)生徒が情報を収集する資料、かつ、(2)自ら獲得した情報を整理し作成するもの

学習に当たっては、例えば、年表や地図、文献、図版、写真、統計資料、実物など様々な資料を活用し、歴史に関わる事象について様々な情報を読み取り、それらを提示された課題(問い)や生徒の課題意識から、時系列に沿った整理や地理的な条件からの整理などを行って、年表や地図を作成したり、文章にまとめたりするなどの学習が考えられる。

(「解説」p.122。)

歴史的分野の学習で用いられる資料には、文献や絵図、地図、統計など歴史学習に関わる様々な性格の資料や、作業的で具体的な体験を伴う学習によって得られる幅広い資料が存在する。その中から、必要な資料を選択して有効に活用することで、社会的事象を面的に捉えるのではなく、様々な角度から捉えることが可能となる。(「解説」p.84。)

(1)「歴史の舞台」の確認(どこで起こったのか)、

(2)獲得した情報を自ら地図上に整理し直すことで、

例1: 生徒が新たな課題(問い)を発見

・なぜそこで起こったのか、 ・他地域にどのような影響を及ぼしたのか

例2: (視点を空間的に切り替えて事象を捉え直す)

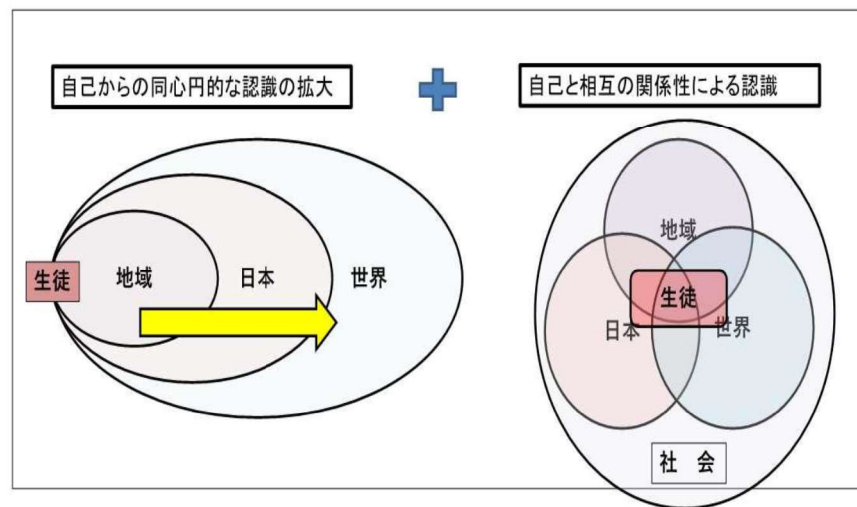
(ペーパーテストで...)

授業で扱った8世紀後半の朝廷の東北への勢力拡大について、東北に住む人々の立場から考察するなど。多面的・多角的な考察を導く有効な学習過程を生み出すことになる。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」³⁷

5

参考 生徒をめぐる地域・日本・世界の空間的な関係の変化(イメージ)



現在及び今後の生徒たちは、空間をどう認識しつつ、事象を捉えていくのか。
地理的分野と連携しつつ、空間的な関係性を意識した歴史的分野の学習は大切。

2016、2019改 藤野

38

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

6

グループ協議Ⅱ-②

歴史的分野の学習で、

公民的分野と関連する授業とは？

歴史的分野の「構想」(公民的分野との関連)

C(2)ア

(7)「日本の民主化と冷戦下の国際社会」

(1)「日本の経済の発展とグローバル化する世界」

(解説)

- ・「現在の私たちの生活との深いつながり」「現代の日本と世界の動き」に関心をもつよう工夫。
- ・国際協調の平和と外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ理解。

歴史的分野の学習の成果

- ・過去の事象との関係
- ・時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなど(時期、展開、変化、継続、類似、差異、背景、原因、結果、影響など)に着目して考察

C(2)イ(ウ)(考察・構想)

これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。
(内容の取扱い) …また、民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応などを取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させるようにすること。

(解説)

- ・現代社会の諸課題についての個別の知識を獲得することにあるのではなく、
- ・生徒が、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、
- ・自らの考えや意見を提案したり、議論したりする学習の過程を通して、
- ・**歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢をもつことの大切さに気付くことができるようにして、**

(考察・構想の際に、多様な視点への気付き)
政治・経済の仕組みや現状、国際社会、社会的な合意形成の過程…など

公民的分野の学習へのつながり

公民的分野の学習へ向けた課題意識をもつことができるようにすることが大切である

39

2019、藤野

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

7

「…第3学年において歴史的分野の学習の上に公民的分野を学習することからも、特に内容のCの(2)などにおいて、「公民的分野との関連にも配慮する」ことが大切である。」「解説」p.124（内容の取扱い(1)の「キ」の解説）

公民的分野との関連

C(2)ア

(7)「日本の民主化と冷戦下の国際社会」

(イ)「日本の経済の発展とグローバル化する世界」

(解説)

- ・現在の私たちの生活との深いつながり」「現代の日本と世界の動き」に関心をもつよう工夫
- ・国際協調の平和外交の推進、開発途上国への援助なども踏まえ理解

現在と直接的につながりを持つ内容

公民的分野の学習との関連

C(2)イ(イ) (考察・構想)

これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

(内容の取扱い) …また、民族や宗教をめぐる対立や地球環境問題への対応などを取り扱い、これまでの学習と関わらせて考察、構想させるようにすること。

(考察・構想の際に、多様な視点への気づき)
政治・経済の仕組みや現状、国際社会、社会的な合意形成の過程…など

公民的分野の学習へ向けた課題意識をもつことができるようにする

(解説)

- ・現代社会の諸課題についての個別の知識を獲得することにあるのではなく、
- ・生徒が、社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせて、
- ・自らの考えや意見を提案したり、議論したりする学習の過程を通して、
- ・歴史の大きな流れの中で現代の課題を考え続ける姿勢をもつことの大切さに気付くことができるようにして、

歴史的分野の学習の成果

- ・過去の事象との関係
- ・時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなど(時期、展開、変化、継続、類似、差異、背景、原因、結果、影響など)に着目して考察

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

「…第3学年において歴史的分野の学習の上に公民的分野を学習することからも、特に内容のCの(2)などにおいて、「公民的分野との関連にも配慮する」ことが大切である。」「解説」p.124（内容の取扱い(1)の「キ」の解説）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	・歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、よりよい社会の実現を視野にそって見られる課題を主体的に追究、解決しようとしているとともに、公民的分野へのつながりを見出そうとしている。	
前知は記されていない		
4 時 間 単 元	「主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題について、これまで学んできた歴史の大きな流れの中で考察し、自分の考えや意見をまとめる。その意見について互いに話し合う中で、よりよい社会の実現に向けて、統一的な問いを設定しよう。」	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。
5 時 間 単 元	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。

「構想」が示されている項目と分野の最後項目であり公民的分野との接続を意識する。

C(2)イ(イ)「構想し、表現する」学習について

指導計画とワークシートの工夫例

「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考事例」事例3【補足1】より

単元	単元の目標(学習活動の目標を達成すること)	単元の学習の振り返りメモ
1	「これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。」	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。
2	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。
3	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。
4	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。
5	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。	「問い」を定める ・これまでの歴史的分野の学習を振り返り、主権や人権、平和などに関する現代社会の諸課題をグループで話し合い、「なぜ」「どのように」につながる問いの形で表現する。 ・グループの問いを参考に、それぞれ自分の問いを設定する。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

歴史的分野のC(2)ア(イ)の学習の構造

I 事象を考察し、理解

ア「知識(及び技能)」に関わる事項

(ア(イ)日本の経済の発展とグローバル化する世界)

①高度経済成長、国際社会との関わり、冷戦の終結などを基に、

イ「思考力、判断力、表現力等」に関わる事項

イ(7)
②(諸改革の展開と国際社会の変化、)政治の展開と国民生活の変化などに着目して、

「見方・考え方を働かせて」課題(問い)を設定し、事象を相互に関連付けるなどして、

④我が国の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において我が国の役割が大きくなってきたことを理解すること

③現代の社会の変化の様子を多面的・多角的に考察し、表現すること。

II 時代の特徴を考察、表現

大項目のまとめ

イ(イ)
現代の日本と世界を大観して、時代の特徴を多面的・多角的に考察し、表現すること。

III 歴史と私たちのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について考察・構想して表現

構想

イ(イ)
これまでの学習を踏まえ、歴史と私たちとのつながり、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

<内容の関連> 図中のI、II

(生徒の生活とのつながりや、日々のニュースなどに現れる日本や世界の動向などとの関わりなど)生徒の関心につながる教材や展開を工夫しやすい項目

(一方で概念的な枠組みについての理解が必要とされるものも多い。)

整理し、その中から公民的分野の学習に委ねるべき内容も明確にして学習の構成を工夫。

→ 公民的分野の学習への関心を醸成することが大切。

<視点の関連> IIIの学習のねらい

・数多くの現代の課題について、知識を詳細に獲得させることではない。

・生徒が考察や構想を深める中で、現代の政治や経済状況、法制度、社会的な合意形成へ向けての経緯など、地理的分野や歴史的分野で学習してきたこと以外にも、課題の解決のために必要な視点が多様に存在することに気付くこと。

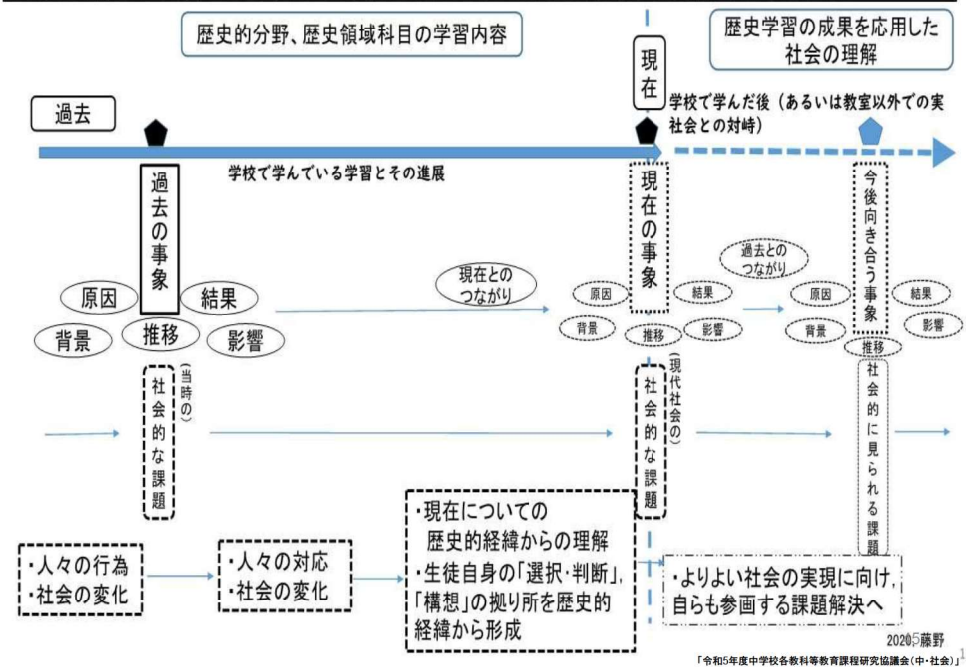
→ 「(学習のねらいは)公民的分野の学習へ向けた課題意識を持つことができるようにすることである。」「(解説)p.121)

<これまでの学習を生かした問いの例>

- ・現代の課題は、共通点を持つ過去の事例とはどのような違いがあるのか。
- ・過去の出来事から現代の課題の解決に参考となるのはどのような点か。
- ・過去のできごととは違い、現代の課題の解決のために、新たに必要であると考えられる視点は何か。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

歴史的分野、歴史領域科目の学習内容と、歴史学習の成果を応用した社会の理解(知識獲得に留まらず、歴史的分野の学習が、その後の社会との接点でどのように活用されるのかを見通した学習設計を)



中学校社会科公民的分野の目標(3)

(3)現代の社会的事象について、現代社会に見られる課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

地理的分野及び歴史的分野においては共通して「課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う」ことを目指していることを踏まえ、その基礎の上に示されているものである。

国民主権を担う公民として、国家及び社会の形成者として我が国が直面する課題の解決に向けて主体的に社会に関わろうとする態度を育む

【国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ること】

国際的な視野に立って

- 国際社会において大きな役割を担うようになった日本の在り方を、国民主権を担う公民として多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることを通して、家族、郷土、自国を愛するとともに、国際社会の中で信頼と尊敬を得る日本人を育成していくことが極めて大切なことであることを示している。

【各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚】

- 地球的課題について、その解決のためには「各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うこと」が重要であること
- これからの社会においては、人類の立場から、また、持続可能な社会の形成という観点から、諸課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現できるようにすることを通して、このことの大切さについての自覚を深めていくことを示しているのである。

大項目D(1)
「世界平和と人類の福祉の増大」

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」¹⁷

3

公民的分野について

中学校社会科公民的分野の目標

現代社会の見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

公民的分野の学習において主体的・対話的で深い学びを実現するためには、分野の学習において適切な課題を設定し、その課題の追究のための枠組みとなる多様な視点(概念など)に着目させ、課題を追究したり解決したりする活動が展開されるように学習を設計することが不可欠である

- 生徒が、様々な社会的事象の関連や本質、意義を捉え、考え、説明したり、現代社会の諸課題の解決に向けて構想したりする際、**現代社会の見方・考え方を働かせる**ことによって、その解釈をより的確なものとし、課題解決の在り方をより公正に判断したりすることが可能となる。
- **現代社会の見方・考え方を働かせる**ことによって、政治、法、経済などに関する基本的な概念や考え方を新たに獲得したり、課題を主体的に解決しようとする態度などにも作用したりする。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」¹⁶

2

主権者に関する教育として期待される資質・能力

【主権者に関する教育】

(知識・技能)

- 現実社会の諸課題(政治、経済、法など)に関する現状や制度及び概念についての理解
- 調査や諸資料から**情報を効果的に調べまとめる技能**

(思考力・判断力・表現力)

- 現実社会の諸課題について、事実を基に**多面的・多角的に考察し、公正に判断する力**
- 現実社会の諸課題の解決に向けて、**協働的に追究し根拠をもって主張するなどして合意を形成する力**

(学びに向かう力・人間性等)

- **自立した主体として、よりよい社会の実現を視野に国家・社会の形成に主体的に参画しようとする力**

【中学校社会科】

(知識・技能)

- 現代社会を捉える枠組み、経済、日本国憲法の基本的原則や政治、国際関係等に関する理解
- 社会的事象等について調べまとめる技能

(思考力・判断力・表現力)

- 社会的事象について多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて**選択・判断したりする力**
- 思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力

(学びに向かう力・人間性等)

- **社会的事象についてよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度**

48 4

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」

力 課題の探究を通して社会の形成に参画する態度を養うことの一層の重視

内容のDの「(2) よりよい社会を目指して」で、持続可能な社会を形成することに向けて、社会的な見方・考え方を働かせて課題を探究し、自分の考えを説明、論述できるようにした。この中項目は、従前に引き続き社会科のまとめという位置付けとし、公民的分野はもとより、地理的分野、歴史的分野などの学習の成果を生かし、これからのよりよい社会の形成に主体的に参画する態度を養うこととした。

また、この中項目における学習活動も含め、分野全体を通して、課題の解決に向けて習得した知識を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察、構想したことを説明したり、論拠を基に自分の意見を説明、論述したりすることにより、「思考力、判断力、表現力等」を養うこととし、言語活動に関わる学習を一層重視した。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」⁴⁹ 13

(1)ア 地理的分野及び歴史的分野の学習の成果を活用するとともに、これらの分野で育成された資質・能力が、更に高まり発展するようにすること。また、社会的事象は相互に関連し合っていることに留意し、特定の内容に偏ることなく、分野全体として見通しをもったまとまりのある学習が展開できるようにすること。

三分野の関連を図り社会科のまとめとして設けられている内容のDの「(2) よりよい社会を目指して」は、その趣旨を十分理解して学習指導を展開することが必要である。「個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務との関係を広い視野から正しく認識」することを基に、「広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎」を育成することを基本として、内容のAからDまでのそれぞれの指導内容と全体との有機的な関連を図る必要がある。

「令和5年度中学校各教科等教育課程研究協議会(中・社会)」⁵⁰

14

ま と め

- ① 社会科におけるICTの活用
- ② 「地理的分野、歴史的分野、公民的分野の役割やつながりを意識する」とは？